

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

2014 年度日本財団助成事業
「子ども力を引き出すための人材育成事業」

事業報告書

NPO 法人さぬきっずコムシアター

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	自然体験講座 講義「子どもの育ちに大切なものは？」
実施日時	2014 年 4 月 20 日(日)10 時～12 時
実施場所	丸亀市保健福祉センター（ひまわりセンター）4 階研修会議室 3
講師	かぐや姫プレイパーク主宰 竹森 康彦氏
参加人数	16 名
詳細	<p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹森氏の活動紹介 ・かぐや姫プレイパークの取り組み ・子どもの成長に大切な体験について ・実際に作ってみよう（万華鏡工作）
<p>【参加者感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもにもっと早く体験させたかった。孫にさせてやりたい。 ・今からでもできることをさせたい。 ・学校等での体験に生かせたい。 ・大きくなってからの修正が大変かも。私たちは理解しているが、全体を変えないと子どもたちの環境は変わらない。 ・遊びにおいては何がつきものという当たり前のことが当たり前になっていないこと。 ・保護者のわが子に対する熱い視線。 ・周りの子どもと同じようにそれ以上に出来る子ども（特に言葉やお勉強など）を望んでいるように思う。 ・親が見ていないところで子どもが育つこと、自分が決めたことはがんばることの大切さを感じました。 ・「かえるの夜まわり」は昔を思い出しました。楽しかったです。 ・とても楽しくためになるお話でした。かぐや姫プレイパークで私も遊びたかったし、子どもも遊ばせたかったです。さぬきっずがしている「竹山ひみつきちづくり」もとても意味あるものだと感じました。 ・実践も交えた講座でとても楽しかったです。子どもに「危ない」と先に声をかけて止めていたことは反省になりました。 ・手を使って何かをする大切さをあらためて痛感しました。 ・子どもたちを取り巻く状況をととてもわかりやすく説明されて良かったです。子どもたちにもっとのびのびと遊ばせてあげたいと思いました。 ・核家族が増えて地域コミュニティが崩壊している中、安心安全で遊べる場所が少なくなっている。もっと外で遊べる環境で楽しくあそばせたい。 ・子どもは何がをしながら危険を学んでいくということが印象的で大変勉強になりました。 ・活動の映像が見られなかったのは残念でした。 	

【成果】

- ・当日の欠席もあり定員にみたない参加者だったことは残念である。周知もかなりし、個別での声かけもしたが集客の工夫が必要である。
- ・参加者が少ないことは、市民の意識にもつながっており、おとなが子どもに向き合うということやおとなが関わる活動に対する気持ちの低さを感じる。わが団体だけでなく、子ども会やPTA活動など担い手不足に悩む団体は多く、これからの啓発活動の充実も課題である。
- ・参加された方は意識も高く、わが子への体験だけでなく、それぞれの活動にも役立てたいという積極的な意見が多かった。一人ひとりが仲間づくりにつなげていってもらいたい。
- ・子ども時代の大切な体験について具体的に論理的に学ぶことができた。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	自然体験講座 講義「自然体験活動の基本『安全管理』について学ぼう！」
実施日時	2014 年 4 月 20 日(日)13 時～15 時
実施場所	丸亀市保健福祉センター（ひまわりセンター）4 階研修会議室 3
講師	一般財団法人 大阪府青少年活動財団 長谷川 徹 氏
参加人数	13 名
詳細	講義内容 ・ 財団の活動紹介 ・ 安全管理について ①KYT トレーニング（トレーニングシート） ②ヒューマンエラー ③ディズニーの危機対応の事例について
【参加者の感想・意見】 ・ 参加型の講座でとても楽しかったです。実践現場としてぜひ役立たせたいと思います。 ・ 自己紹介ワークショップも楽しかったです。 ・ あっという間の 2 時間でした。もう少し時間をかけて話を聞けたらよかったですと思いました。 ・ 短い時間でしたが、KYT トレーニング等についてとても勉強になりました。 ・ 危険予知や事前対策が勉強になった。 ・ 人間関係づくり（信頼関係づくり）のゲームもよかった。 ・ いかに安全に行うためのプログラムと子どもの興味を引くプログラムの取り組み ・ KYT を行って今後の自然体験活動を企画しようと思う。 ・ 日頃の活動の振り返り、確認、再認識に大いに役立ちました。 ・ 体験活動の重要性、子どもを取り巻く大人、親への意識啓発が大事だと感じました。 ・ いろいろな場面を想定しての“安全”について考えることができました。事前に事故を防ぐようなルールづくりも大事だと思いました。	
【成果】 ・ 午前中は「かかもするがそこから学ぶ」ということだったが、午後は「細心の注意を払って活動を実施する」という内容で、最初は矛盾も感じたと言われる参加者もいたが、子どもの体験を活動として実施する場合の実践者の必要な視点、心がけと体験する子どもの大切な学びということで理解していただけだ。 ・ 実践者として安全面での具体的な取り組み策が理解いただけただけで、活動の中に取り入れていくという方が多かった。 ・ 大きな学びにつながったようなので安全対策をしっかりした活動をどんどん実践して行って欲しい。	

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	自然体験講座 実習講座「竹山ひみつきちづくり」
実施日時	2014年5月10日(土) 10時～15時
実施場所	宇多津町竹山(山口さん所有)
講師	げんき会 中川 寛氏・川田 洋氏
参加人数	体験参加者 58名(子ども 34名・おとな 24名) 受講生 7名
詳細	<p>実践内容</p> <ul style="list-style-type: none">・オリエンテーション(危険予知、周知)・ひみつきちづくりの場で子どもたちと一緒に取り組む。・視野を広げて子どもたちを見守る・安全対策の取り組み発表(実際にどうだったか)
<p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・KYTを使って事前に危険なことや場所を察知しておいたので、自然と意識も向き子どもたちの行動を見守ることができた。・どこまで子どもたちに注意をしたらいいかちょっと迷った。・つい自分自身が遊び(きちづくり)に夢中になってしまった。・危険を察知することに意識をむけると、たくさんの「危ない!」があり、それを排除するのではなく気をつけながらどう活動するかという視点で関わった。・竹の切り口や枯れ枝に注意を払った。・道具がたくさんあり、子どもたちに使わせることも大事なので気を配った。・子どもたちの自主性を尊重したかったが、つい先ぼった用にも思う。・何が危険か子どもたち自身が察知できるように声掛けなどしたのが良かった <p>【子どもたちの感想】</p> <ul style="list-style-type: none">・初めて竹を切った。きれいにきれて良かった。・竹を縄でくくりつけるのとかはしごの作り方とかいろいろ教えてもらってきちを作った。すごいきちができてうれしかった。もっときちであそびたかった。・おはしやうつわもつくれてすごかった。	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・オリエンテーションで事前に実習生から、危険な事柄を述べてもらい参加者の親子にも気を付けてもらえるよう周知したことは良かった。・実習として関わることで、参加者への目線を広くもてていたようだ。・事前の講義が十分役立てたようだ。・子どもへの自然体験、創造体験の大切さや楽しさを実習生にも参加者にも体験してもらえた。・このような活動を事前準備から、最後の始末まですることも受講生に伝えることはできたが、実際には関わってもらってないことが残念である。・講義だけでなく、実際の活動に入ることで活動の実施者としての具体的な学びにつながったようである。地道な人材育成が大切である。	

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	表現活動講座 講義「子どもの表現活動と関わり方」
実施日時	2014年7月6日(日)10時～12時
実施場所	丸亀市生涯学習センター（まなびらんど）4階講座室1
講師	NPO 法人遊び環境 Museum アタフバーバン 平川恭子氏 北崎圭太氏
参加人数	15名
詳細	<p>講義内容</p> <p>【テーマ】</p> <p>子どもの体験活動支援者＝子どもの力や環境を想像して、共に歩もうとする「響関者」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども力」とは何かを探る。 ・子ども力が発揮されにくい現在の状況・環境について思いを馳せ、話し合う。 ・その環境を創っていく大人の一人として、今後できることを自らのなかに見つけ出す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者同士の交流の遊び／安心して意見が言い合える雰囲気や関係性づくり（ワークショップ） 2. グループディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども力」とは何か？ ・今、「子ども力が発揮されていない」状況にあるとしたら、その原因は何か？ 3. 子どもの遊びを支える4つの環境 4. 「響関者」へ向かって - 秘密の企みと（ワークショップ） 5. 子どもと関わるうえで、これから磨いていきたい大人力は何か？
	<p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。今回の経験を生かせるよう努力したいです。 ・自分自身が“あそぶ”ことで一緒に笑ったり共感してもらったり触れ合ったりすることの楽しさを実感することができました。子どももその気持ちは一緒だと思います。それイイね！と言って笑顔のなれる響関者になれるようにしていきたいな♪ ・子ども力、大人力を書き出す事で頭の中にあったことが整理できました。 ・今ある子どもの危機がみにひしひし迫りましたが、少しでもこの場にいる大人のような人が増えれば少しは明るい先が見えるのかと思います。そうするには、どうすればよいのか、このようなわかりやすい講座内容をより多くの大人、親に広める方法を暗中模索中です。何とかしたいものです。 ・子ども力とは、、子どもを取り巻く環境は、、まあいろいろありますが、自分にできることをしていきたい。自分の子ども力も磨いていきたい、と思いました。 <p>楽しかったです。ちょっとパワーアップしたと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの関わり方と問題点を楽しく改めて考えさせられたし、改善できる点も見つけることができた。自分の子だけでなく、他の子どもたちにもやってみた。

・子ども力を阻むものについて考えたことが良かった。自分には何ができるのかと思いました。自分ができることややりたいことを忘れずにいたいです。多くの大人に今日の講義を受けてもらってひろがるといいなあ。

・小さい力だが、これからの子どもたちのことを思い動いていく勇気が湧いてきました。

・アフタバーバンさんの活動の深い意味を知ることができて本当に良かった。改めて、今の社会環境、大人環境を勉強でき、その中で子どもをどう育てていくかを私なりに考えていきたいと思う。

・とても楽しかった。涙がでるくらい遊んだ。たくさんの大人が、こんな楽しい体験ができたらいいなあ。

・とっても楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。子ども力…とかそれをだめにしてある要素など…なるほどな事がいっぱいでした。

・わかっているけど、なかなかできない響関者！ですが、子どもの頃を思い出して子どものことを認める大人になっていきたいです。

・子どもを囲む環境や大人の状況についていろいろ思うこの頃ですが、それを責めるばかりでなく、大切な事を自分自身が再確認し、どうあるべきかを思う（思い直す？再認識）する事が出来る時間であり、私の中の子ども力（心）をゆさぶられつつ、大人としての心構えを考える時間でした。とても楽しかったし、もっと子どもとかかわる時間を大切にしたい。

・また是非、講座受講したと思いました。今まで思っていたことの再確認もできまし、また仕事がんばろー！っと思いました。でも、ここにくる人は同じような想いを持っている人だから、そうでない人たちに聞いて欲しいと思いました。行政のおえらさんに来てもらいたいです。

・今回の講座の経験を生かして父子キャンプの時などの導入に役立てようと思います。

【成果】

・子どもを取り巻く環境、子どもの力、おとなができることなど、理論的に学べたことと、ワーク体験により、コミュニケーションを深められたことなどで参加者の理解も大きかったようである。

・実際に活動に関わることの大切さ、伝えていくことの重要性なども伝わったようで、実践につながるようなご意見が多かった。

・アフタバーバンさんの取り組みに受講者のみなさんが感銘を受けられており、「子ども力」を引き出すことへパワーアップされていた。

・わが子への対応への振り返りと、これからの子どもたちに関わる者としての意識向上につながった。それぞれが関わるところで今日の学びを活用してもらいたい。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座・子ども体験活動

報 告 書

実施内容	表現活動講座 実践①「高学年 探検あそび隊」 ②「低学年 忍者あそび隊」
実施日時	①2014年7月19日(土)14時30分～20日(日)13時30分 ②2014年7月21日(月)9時30分～22日(火)10時30分
実施場所	香川県立少年自然センター
講師	NPO 法人遊び環境 Museum アフタババーバン 平川恭子氏 北崎圭太氏 大賀雅代子氏 佐藤律子氏
参加人数	受講生 のべ7名 活動参加者子ども のべ55名
詳細	<p>【実践内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バーバンさんとの打ち合わせ ①WS I 五感を使うゲームあそび・グループづくり WS II 屋外活動 宝探し WS III 屋外活動 ②WS I 忍者あそび 五感をとぎすまそう WS II 屋外活動 からくり神社づくり WS III 新聞を使って <p>WS の中に、ファシリテーターとして関わったり、子どもと同じ目線で関わったりしながら、WS の内容や流れ、子どもへの導入、遊びを実体験する</p>
	<p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に遊んで遊ぶ楽しさを感じられた。子どもに戻ったようだった。身体を使って思いっきり遊びきる体験を子どもたちにさせたい。 ・むちゃくちゃ楽しかった。こんなふうな遊びのレクチャーがあるなんて、子どもたちと一緒にやってみてみたい。 ・1泊2日かけて子どもたちと関わるのは、かなり体力的にもハードではあるが、親許離れてこういった体験ができるのはすごいと思った。 ・「あ！それいいよね～」と言って子どもたちがすることや意見を全て認め受け入れるのを見て、なるほどと感じた。子どもとの対応の仕方、子どもたちの力を引き出し、どんどん世界が広がっていく楽しさを感じられた。 <p>本気になって隠したり、探したり「やったー！」と思いました。“あそぶ”それは、自分のいろんな力を試し、仲間とつながる活動。忍者修行、指南していただきありがとうございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームから離れて、本気で忍者をやる姿、これが子ども力だと感じた。自分がどこまで関わられるかわからないが、この子どもたちの本気顔を大切にしたい。

【成果】

- ・活動の中に一員として関わると随分、意識も変わってくるようである。実際に子どもたちの生き生きとした顔を見ると、活動の組み立てや関わり方など体で感じてもらえたようだ。
- ・実際にこの活動をすぐマネできるかというところがうまくいかないであろう。しかし、子どもたちと関わる中で少しずつ子どもたちの力を引き出せることにつなげていってもらえそうである。
- ・参加した子どもたちにも、おとなが必至になって自分たちと関わる「遊びあう」大人がいることに親しみや楽しさを感じてもらえたようだし、何より仲間意識を持っていたようだ。
- ・アフタフバーバンさんからの「響関者」になる！という意味がよくわかる実習になった。子どもも実習生も思いっきり楽しめた体験になった。
- ・コミュニケーションを図る場でのワークショップに活用していけることも見いだせた。
- ・どれだけ子どもたちが素になって楽しみ遊びきり、仲間づくりもできていったか身をもって感じてもらえた講座になった。この学びの体験を生かせる活動を作っていくことが必要である。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座・子ども体験活動

報 告 書

実施内容	表現活動講座 実践 「幼児親子 忍者修行・入門編」
実施日時	2014年7月5日(土) 13:30~15:00
実施場所	丸亀市生涯学習センター(まなびらんど) 4F 大広間
講師	NPO 法人遊び環境 Museum アタフバーバン 平川恭子氏 北崎圭太氏
参加人数	38名(子ども20名・おとな18名) 受講生5名
詳細	<p>【実践内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座のために来られる講師の時間が取れるということで、幼児期の子どもにも体験の場を追加企画した。 ・平川氏と北崎氏が忍者に扮し、ファシリテーターとなり親子が関わり合いながら忍者として術を磨いていくワークショップを行う。 変身の術・見立ての術・隠れの術・水中の術・お宝探し 楽しいゲームを身体で受け止め表現していく内容。
<p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が思いっきり身体を動かし笑顔で体験ができたと喜んでた。 ・親子でまた仲間とで協力し合うワークショップは子どももおとなも人と関わり合うことの楽しさを感じられた。 ・こんなに楽しいと思えたことは余りない経験だった。(おとな) ・水の中を泳いでいくのは怖かったけど、パパと一緒にだったから大丈夫だった。 ・巻き物の宝をいっぱい探せたよ。 ・岩に変身したときに壊されそうになったけどみんなで一生懸命にがんばった。 	

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが真剣に忍者に成りきり、ファシリテーターから出される課題に取り組む姿は、好奇心いっぱいの子どものらしい姿で微笑ましい。どのように相手に伝えられるか、一生懸命考え、また相談もし合い、幼いながら関わる術を学んでいた。昔であれば、外遊びなど異年齢で関わりあいながら自然と身に付けていたことが、昨今の子どもたちは、コンピューターゲームで遊ぶことが多くなっておりこういった関わり合うことがなかなかスムーズにいかないことも。コミュニケーション能力を身に付けていくためにも一過性の体験ではなく、継続的に提供していく必要がある。おもいっきり身体を使って成りきり遊びをする楽しさや、生きる修行に成りうる大切さを改めて感じられる企画であった。 ・今回は親子参加の体験とし、親子でもじっくり関わり合っ欲しいと企画したが、親がいるとどうしてもたよりがちになるので、子どもだけの体験も大きく成長するきっかけにはなると感じた。 ・養成講座に参加申し込みされている方も親子で参加され、講座への期待も膨らんだようである。このワークショップのスキルを是非全てのおとなに身に付けていただきたい。 	
--	--

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座・子ども体験活動

報 告 書

実施内容	自然体験活動講座 実践（追加企画） 「河原であそぼう！」
実施日時	2014 年 9 月 20 日（土）10：00～13：00
実施場所	金倉川河原 及び どろんこ亭
講 師	山倉 康平氏
参加人数	45 名（子ども 27 名・おとな 18 名）（15 世帯） 受講生 5 名
詳 細	<p>【実践内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然遊びをする前に自然の中に入る危険を察知すること、何が危険かを実習生から伝達してもらう。（前回は山の体験だったので川での体験を実践してもらう。）追加体験活動。 ・河原に入り、自然の恵みを感じる。生き物、植物、固形物・・・たくさんの物を五感で感じ取る。 ・気に入った石を一つだけ見つけて持ち帰り、ネイチャーゲームをする。石が何に見えるか、感じるか考え、あててもらうゲーム（石の鑑定団） ・自分で作ったピザを石窯で焼いて食べる。 <p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川のような川でも各場所で様子が違うので事前観察し、危険予知能力の必要性を感じた。 ・少し位危険そうでも、どんどん子どもたちに踏み込んでもらいたいとも思う反面、危ないことは避けないという感情がある。見極めが難しいと思う。 ・ただ、河原に入るだけでも子どもたちにはわくわく体験になったようであるが、自然のものでゲームする（ネイチャーゲーム）こともおまけの感じ方ができたようで楽しかった。 ・エビや魚、カニも見つけられてすごかった。 ・川の水が少ない所や多い所とかあって気を付けた。 ・水が気持ち良かった。 ・ネイチャーゲームで、何でもない石がいろいろなものに見えてくるし、あてっこして遊ぶことに大人もすごく面白かった。 ・身近にある川だが、普段自分たちだけでは入って遊ぶことも気が引けるが、こうやってみんなで遊ぶと平気だし、とても楽しかった。 ・石飛ばしがうまくできなかったけどパパは上手だった。 ・もっと、魚や生き物を取ってみたい。 ・死んでいる魚がいた。

【成果】

- ・自然体験活動を実施する時の、山バージョンと川バージョンの実践講座ができ、受講生は身をもって危険の察知の大切さを学べたようである。参加する側と企画する側の違いも感じられ、事前の準備内容も気にかけるようになっていた。
- ・体験プログラムの作り方、子どもへの伝達の仕方に工夫がいることなど理解を深め、次へのステップにつながりそうである。
- ・河原遊びが特別なことになってきている現状がよくわかった。自然の中の危険を熟知した大人が関わりながら、普通にこのような遊べる環境ができることが望ましいが、どのように作っていけばよいかは大きな課題である。
- ・自然があれば子どもたちは、どんどん遊びの中に入る。大人と一緒に楽しむと子どもはもっと楽しみを深めていっているようである。支援者も子どもの目線を感じとることも必要である。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	郷土探検講座 講義 「むかしの丸亀・郷土を知る」
実施日時	2014 年 9 月 7 日（日）10：00～12：00
実施場所	丸亀市学習センター（まなびらんど）4F 講座室 1
講 師	丸亀市教育委員会総務課 文化財保護担当長 東 信男氏
参加人数	10 名
詳 細	<p>【実践内容】</p> <p>講義内容・各時代の主な遺跡、建造物から丸亀の歴史や以外な話などを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の発掘された土器や石器また骨などを手に取って見せていただいた。 ・丸亀港から金刀比羅に続く、金毘羅丸亀街道の遺跡についてのお話と次回、それに沿ってまち歩きの実施案内。
<p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれ育った地域のことをあまり知らないことがよくわかった。歴史的なすばらしい所がたくさんあり知らなかったことが残念である。子どもたちにも是非伝えていきたい。 ・考古学的にも歴史あるまちである。もっとアピールして町おこしに繋げられたらいいと思った。 ・もっとたくさんの方が、自分のすむ丸亀を知ることが必要だと思う。自分が得たことは子どもにも伝えたいがもっと知識を深めないと難しい。こういった講座をもっとしてほしい。 ・東氏の話は幅広く楽しくとても興味をひく内容だった。 ・歴史は好きだったが、この地域のことはよく知らなかったし、知ろうともしなかったが、たくさん興味深い歴史があることがわかって参加して良かった。 ・考古学の先生だったのでそちらの話が主だったので文化的な歴史ももう少し知りたいと思った。 ・丸亀の素晴らしさを教えて頂いた。普段何気なく通っている所にも歴史的に重要なものがたくさんある事に気付かされた。 ・盛りだくさんで丸亀にもたくさんいろんなものが残っていて興味を持った。内容を絞ってもう少し深く知りたいと感じた。お城はおもしろいなあと思った。 ・丸亀の持つ歴史的資源を改めて知ることができた。これをもっと外に出す、生かしていく、人の目にふれるように（観光資源としても）工夫が大事になるのではないか。子どもにこの資源を知らしていく必要を感じた。講師のマニアックぶりも引き込まれて良かった。こういう人材は絶対に必要である。 	

【成果】

- ・丸亀にあるたくさんの遺跡や建造物を教えていただき、丸亀の歴史などよく理解していなかったことがよくわかり、大きな学びになった。これを子どもたちに楽しく伝えられるおとなにはすぐにはなれそうもない。しかし、今回講座をするにあたって、このようなエキスパートの方が地域に存在することを知り得たことは大きな財産であり、これからの活動に結び付けたい。
- ・自分が関わる子ども対象の活動に「丸亀の歴史」のことをしてみたいと思われた参加者もいた。
- ・生涯学習としておとなが「そうなんだあ」「へえ～」といった驚きの学び時間になった。
- ・講師の先生から「歴史」や「遺跡」などの講座をすると参加者は大変少ないということを聞いた。今回の講座も参加者が少なく大変残念であった。おとなももっと新しい学びへの意欲を持って欲しいと思うが、どのようにアピールして参加者を増やすか課題である。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座・実践講座

報 告 書

実施内容	郷土探検講座 実習 「わがまちを知る！うちわ作りとまち探検」
実施日時	2014 年 10 月 5 日（日）10：00～12：00
実施場所	丸亀市うちわミュージアム
講 師	うちわづくりボランティア
参加人数	23 名（子ども 13 名・おとな 10 名） 受講生 4 名
詳 細	【実践内容】 ・うちわのお話とうちわ作り体験（作成 15 名） ・子どもたちと一緒にうちわ作りを学ぶ。 ※台風接近のため、悪天候となり「まち探検」は延期とする。
	【感想・意見】 ・丸亀に住んでいるが、うちわづくりをしたことがなかったのでごく新鮮でおとなも楽しめた。 ・子どもたちに伝統産業として体験させてあげられ良かった。もっと、普通にたくさん子どもたちやおとなが参加したらいいと思う。 ・竹を裂く工程からやってみたい。 ・簡単そうで難しかった。難しそうで簡単だった。 ・丁寧に教えていただいたので、幼い子どもも自分ででき、満足していた。 ・子どもちに「うちわ」のことをどのように伝えたらいいのか難しい。
	【成果】 ・講座受講生も親子で参加し、珍しい体験を楽しんでいた。もっと、地域子どもたちが、身近に地域財産に触れる機会が作れたらいい。自前で、本格的なうちわづくりは工具もなく技術もないので難しいが、職人と子どもたちのつなぎ役はできるであろう。受講生も、まず知る、見る、学ぶ、そして伝える（広める）役として地域で活躍して欲しい。 ・身近にあるうちわが、細かい手作業で出来上がっていくことを子どもたちは知り、大変興味深く、作成していた。 ・このような体験は、子どもの経験の中の一瞬であり、地域の貴重なモノが消え去っていく昨今、次世代に引き継いでいくシステムづくりも必要になってくる。地域の資源、物作りの楽しさを伝えるおとな育成には、まだまだ届かない。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座・実践講座

報 告 書

実施内容	郷土探検講座 実習 「わがまちを知る！うちわ作りとまち探検」
実施日時	2014 年 10 月 26 日（日）10：00～12：00
実施場所	丸亀城周辺
講 師	丸亀市教育委員会総務課 文化財保護担当長 東 信男氏
参加人数	20 名（子ども 12 名・おとな 8 名） 受講生 4 名
詳 細	【実践内容】 ※台風接近のため、悪天候となり延期した「まち探検」活動の実施。 ・丸亀城を起点に歴史的な人や建物、文化の説明を受けながら、まち歩き体験。 受講生は子どもたちに丸亀の町の紹介ができるようになる。
【感想・意見】 ・台風で日程がずれたが、暖かい一日でとても良かった。 ・まちの中をまず歩くことが無くなってきており、とても新鮮な気持ちになれた。知らなかったところも見ることができたし、普段通っても目に留まらなかった風景をじっくり観察できた。 ・歴史を教えていただきながらまちを歩くのも楽しい。 ・シャッター商店街は非常にさみしく感じられた。時代でまちの風景も変わるだろうが、歴史と現在の発展とつなげるまちづくりが必要ではないか。	
【子どもたちの感想】 ・丸亀を友達と歩いて楽しかった。 ・丸亀城のまわり ・いっぱい歩いて疲れたけど楽しかったよ。 ・お話が難しかった。 ・暑かったけど、また、みんなと歩きたい。	
【成果】 ・台風の影響で悪天候となり、日程変更したため参加できなくなった方もあり残念ではあったが、参加された方は子どももおとなも新しい発見に興味深々であった。なかなか、じっくり歴史感じながらあるこという機会が少ないため新鮮な体験になったようである。 ・歴史をマスターするには、難しいかもしれないが、一つでも何かしらの目標を作って「歩く」という体験活動にはつなげられると感じた。受講生のこれからの積極的な取り組みに期待する。 ・歴史やまち歩きから受講生が「まちづくり」の気付きにもつながったようで、社会参画するきっかけにもなりそうである。	

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座・実践講座

報 告 書

実施内容	郷土探検講座 実習・子どもの体験活動 「さぬきの郷土料理を作ってみよう！」
実施日時	2014 年 11 月 15 日（土） 9：30～13：00
実施場所	飯山総合学習センター
講 師	山本 久美子氏（さぬきの食文化博士・食育生活改善推進協議会会長） ボランティア 6 名
参加人数	26 名（子ども 11 名・おとな 15 名） 受講生 5 名
詳 細	【実践内容】 ※地域の食材や郷土料理を知る講座を追加 ・昔から伝わる、さぬきならではの料理を親子で体験する。 ・実習生も郷土料理づくりを身に付ける。
【感想・意見】 ・よく目にするものではあるが、自分で作ったことがなかったので、作れて良かった。また家でも作ってみようと思う。 ・レシピもいただいたので、他の人にも教えられると思うがこれだけのメニューを一度にするのは難しい。今回、たくさんの方ボランティアの方がきてくださっていたのでスムーズにできた。 ・うどんだけでない！香川の食文化を知ることができて良かった。 ・子どもと一緒に作れて良かった。酢の物が嫌いな子どもがじぶんで作ったからかおいしそうに食べていた。 ・食の大切さを改めて感じ取れた。子どもにも安心安全な食事をしっかりと与えていきたいし、子ども自身も身に付けて行って欲しい。 ・手間暇かかるけれど「料理」の楽しさを味わえた。また、地産池消の食育も大切だとわかった。地元旬な食べ物はおいしいですね。	
【子どもたちの感想】 ・お魚がおいしかった。 ・押し寿司を作るのが楽しかった。またしたいです。 ・さつまいもにココアを付けるとき、手にいっぱいつきました。すごくおいしかった。 ・お寿司はあまり好きではなかったけど、今日のはすごくおいしかったです。	

【成果】

- ・押しずしという郷土料理を作ったことのある方がいなくて、初めて体験となりとてもいいメニューになった。講師の先生がたくさんのボランティアさんを引き連れてきてくださり、指導のフォローや片付けなどのお手伝いをしていただき、親子でゆっくりとしっかりと「調理」体験ができた。
- ・うどん県ではあるが、様々な郷土料理がありそれを知るきっかけにもなった。また、作りたいという意欲も見られ、是非伝授して欲しい。
- ・最初に食の大切さもお話していただき、子どももおとなもしっかり受け止めていた。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	郷土探検講座・実践講座 子ども体験活動 「さぬきうどん作りに挑戦！」
実施日時	2015 年 1 月 10 日（日）10：00～13：00
実施場所	丸亀市健康福祉センター（ひまわりセンター）
講 師	蒼空会 神 良昭氏 ボランティア 6 名
参加人数	47 名（子ども 30 名・おとな 17 名） 受講生 5 名
詳 細	【実践内容】 さぬきうどんは、全国的に有名であり日々の食文化ともなっているが、粉からつくりあげる作業体験を親子で学び、自分で作ったうどんを食してみる。 受講生は、伝統や作り方のコツをしっかりと学び、伝授できるようになる。
【感想・意見】 ・簡単にうどんを食べているが、粉からのうどん作りは体力も必要で大変だった。 ・うどん打ちがコツも力もいり、子どもには大変だったが、指導者の方がお手伝いもしてくれて楽しくできた。 ・自分で作ったうどんがお店のうどんみたいにとてもおいしかった。 ・こんなに大変なうどんづくりができるおじいちゃん先生たちはすごい。 ・コツ、根気、うどんづくりの秘訣かも。ちょっと自分の家で作るには気合いが必要だが、みんなとイベントとしてやるのは楽しいので取り組んでみたい。	
【子どもの感想】 ・うどんづくりは疲れたけれど、むちゃくちゃおいしかった。また、作って食べたい。 ・うどんを伸ばすのが大変でおじいちゃんにやってもらったから良かった。「おいしくな～れ」って、足でいっぱい踏んだからすごくおいしいうどんになったよ。 ・はじめてうどん作って楽しかった。	
【成果】 ・よく食べるさぬきうどんではあるが、作ったことのない親子もたくさんいて貴重な体験になったようである。 ・道具は揃えられないが、うどんづくりの伝授体験はできると受講生の中から声も上がっていた。シルバー世代の方が教えてくださり多世代の交流もできて良かったが、伝えていく若い存在も今こそ必要になってきているようである。是非担って行って欲しい。	

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	舞台表現活動講座 講義 「子どものコミュニケーション力を育む劇づくり体験を」
実施日時	2015 年 3 月 15 日（日）10：00～12：00
実施場所	丸亀市健康福祉センター（ひまわりセンター）
講 師	劇団 R&C 広瀬 多加代氏
参加人数	12 名
詳 細	【実践内容】 ・ドラマづくりをてがける講師から、その成り立ちや内容、またドラマづくりから育まれる子どもの成長を学ぶ。
<p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育つ舞台劇づくりには、いろいろな工夫がされていることがよくわかった。子どもの力を存分に引き出し、達成感を味わえる劇づくりは貴重な体験だと感じた。 ・今回他市の行政の方が参加されており、教育委員会が劇づくりに取り組むそうで大変いいことだと思う。たくさん子どもたちが体験できることは素晴らしい。 ・大変貴重なお話を聞くことができたが、参加者が少なくもったいなかった。もっと、たくさんのおとなに聴いてもらって、子どもの体験の大切さを伝えるべき。 ・ドラマづくりには奥深いものがあると感じられ、今後の私にも役立つかな。 ・ドラマスクールの意義がよくわかり、これからも継続していくことが大切だと感じた。 ・広瀬氏が大切にされていることをしっかりうかがえた。大切にすべきことをはきりもってドラマづくりの体験に参加したい。 	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の講座でもあり、たくさんの方に聞いていただきかったので、再度ちらしを作成し、細めに声かけやチラシ配布をしたが、劇づくりの体験に興味を持つ方が少ないのか、申込みが大変少なくとても残念であった。隣市である坂出市の教育委員会に活動の後援を申請した時、大変興味を示していただいた職員さんが今回参加され、2015 年度に市で子どもたちに劇づくり体験を市の行事として実施されるとのこと。是非、学びとして持ち帰っていただき、この劇作り体験を広めていていただきたい。行政主体になれば、よりたくさん子どもたちに体験ができるので、今後、教育現場の先生方や教育委員会へのアピールなどしていきたい。 ・劇づくりの持つ力をみなさんしっかりと受け止めていただけたようで、これからの活動に繋げていく力にもなったようである。 ・子どもの育つというこは、勉強ができたりスポーツができたりすることが大切ではなく、人間として生きる力であり、生活力であったり、自分表現力であったり、コミュニケーション力であったりすることを改めて感じられ、劇づくり(ドラマスクール)にはその力を育む要素がしっかり入っていることが伺えみなさんに共感していただけた。 	

・舞台の世界にいる方の教えは専門的なので同じことはできないが、「ドラマスクール」の意義は、すばらしい舞台劇をつくるのではなく、子ども力を引き出す活動なので ある程度のノウハウを習得し、補助的役割でも担える人材育成をしていくことが必要だと感じた。

平成 26 年度日本財団助成事業「子ども力を引き出す人材育成事業」

子どもの体験活動支援者養成講座

報 告 書

実施内容	舞台表現活動講座 実習・子ども体験活動 「高学年 ドラマスクール」
実施日時	2015 年 3 月 27 日(金)10:00 ～ 3 月 28 日(土)13:00
実施場所	香川県青年センター
講 師	劇団 R&C 広瀬 多加代氏 ・ 金川 直美氏
参加人数	子ども 43 名 受講生 7 名
詳 細	<p>【実践内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 泊 2 日親許を離れ、友達と共同生活をしながら、ドラマ(舞台劇)づくりに取り組む。ストーリーから舞台発表までの一連の流れをこなす。 ・ ドラマづくりの手法や子どもたちの力の引き出し方などを学ぶ。
<p>【感想・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて会った子どもたちが、力を合わせすばらしい舞台劇を創り上げるプロセスはすごいと感じた。 ・ テーマ「友達」からつくられたドラマはどれも違いそれぞれのチームで考えられたものになっていた。子どもたちの創造力、感性が十分伝わってきた。 ・ スタッフの言葉にちゃんと耳を傾けたり、片付けしたり協力しあったり子どもたちの自分力もしっかり感じられた。 ・ 劇を作る作業は、自分の感性も主張し、またグループワークなのでみんなのアイデアも聞き、協調しあいしながらで、ぶつかり合ったり悩んだりもして進んでいく。1 泊 2 日の短い間にたくさんの経験を積んでいく場だと改めて感じた。 <p>【子どもの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドラマを作るまではセリフを変えたり動作を変えたりして大変でした。でも、みんなの前で発表した時は、みんなのも見れてうれしかったです。ごはんもみんなで食べれて楽しかったし、ねるときもおもしろかったです。来年も参加したいです。 ・ 知っている人と班がはなれちゃったけどその分いろんな班のげきが楽しく感じました。次も絶対参加したいです。 ・ 参加して知らない人とも仲良くできたし、知っている人とももっと仲良くできました。ドラマも、うまくいかないところや、上手にできたところもあってよかったです。 ・ たくさんの人、初めての人だったけど協力しあえてよかったです。 ・ 時には困ったりもめたりすることもあったけどやっぱり来て良かった。 ・ 初めはとてもきんちょうしました。でも、同じグループの人がやさしく声をかけてくれたり、班長さんがアドバイスをしてくれたので、初めての体験でみんなまとまってとっても楽しい 2 日でした。 	

【成果】

- ・活動に参加することで、子どもの力をまじまじと感じ取ってもらえた。また、ドラマづくりのノウハウも少しではあるが、理解してもらった。この活動を専門性のない者で実施するにはここまで子どもたちの力を引き出せないとも思うので、このような専門的な活動は専門家に協力していただきながら、活動の補助をしたり、活動を継続させたりできる人材育成の講座となった。
- ・座学受講し、活動の内容や意義などもしっかり受け止めての実践講座で、ドラマづくりの進め方や子どもへの対応の仕方、子どもたちの状況つかみなどもみなさんしっかりされていた。
- ・初めて顔を合わす子ども同士が、ぶつかり合いながらもひとつのものを創り上げていく過程でたくさんのもので得た様子である。すっかり仲の良い友達になり電話番号の交換もしてこれからも繋がりがあろうだった。親に言われて参加したが、とても楽しかったという子どももいた。また、グループワークの作業で協力しあったり、リーダーとしてまとめ役になったり、それぞれが自己表現し、自己発揮していた。
- ・1人もじもじしている子どももいたが、最終的にはすっかりなじんで発表にいでんしていた。
- ・高学年といえ、新4年生からで親許離れて初めてお泊りという子どももたくさんいたが、みんな協力しあってスムーズに生活できた。
- ・劇作りを通して、人との関わり（コミュニケーション）を充分体験できた。

事業報告写真集

自然体験講座 講義「子どもの育ちに大切なものは？」



自然体験講座 講義「自然体験活動の基本『安全管理』について学ぼう！」



自然体験講座 「竹山ひみつきちづくり」 子ども体験活動&人材育成実習講座



表現活動講座 講義「子どもの表現活動と関わり方」



表現活動講座 子ども体験活動&実習講座

①「高学年 探検あそび隊」

②「低学年 忍者あそび隊」

①



②





表現活動講座 子ども体験活動&実習講座
「幼児親子 忍者修行・入門編」(追加企画)



自然体験活動講座 子ども体験活動&実習講座
「河原であそぼう！」(追加企画)



郷土探検講座 講義
「むかしの丸亀・郷土を知る」



郷土探検講座 子ども体験活動&人材育成実習

「わがまちを知る！うちわ作りとまち探検」





郷土探検講座 実習・子どもの体験活動（追加活動）

「さぬきの郷土料理を作ってみよう！」





郷土探検講座 子ども体験活動&実習講座
「さぬきうどん作りに挑戦！」





舞台表現活動講座 講義

「子どものコミュニケーション力を育む劇づくり体験を」



舞台表現活動講座 子ども体験活動&実習講座
「高学年 ドラマスクール」



